

## 合体意見文を書こう

国語 国語総合 第1学年  
石川県立津幡高等学校・教諭

### 1 事例の概要

本校の生徒の多くは文章を書くことに苦手意識を持っている。どのように書くかということ以前に、何をどのように考えればよいかという段階でつまづいている。「考える」という大切な過程を避けているため、言葉にならない心のひっかかりや胸のもやもやが短い単語に置き換えられてしまい、そのことによって他者との間に誤解を招いたり、共感する温かい心の交流が失われたりする傾向があるように思われる。

一方、生徒間では携帯電話によるメールのやりとりが頻繁に行われ、豊かなコミュニケーションがなされているように見えるが、実は相手を突き刺すような冷たい言葉のやりとりでお互いを傷つけ合ったり、各自がそれぞれ勝手な話題を投げ合うだけで、誰も拾うことを考えていなかったりするような状況もしばしば見受けられる。

このような状況の中で、しっかりとした文章を書くということはしっかりと考えることなのだとということを実感させ、さらに文章によって人の心を動かす喜びを体験させることで、書くことへの抵抗を減らし、ものを考える手段として書くことを利用する力を育成したいと考えた。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・現代社会を生きるにあたり、避けられない課題について深く考察し、自分の考えを持つ。
- ・他の人の主張を正確に理解する。
- ・筋道立てて考えをまとめ、説得力のある文章を書く。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ①考えさせる工夫

納得いくまで考えることを避け、「何となく・・・と思う」とごまかすことで思考をストップさせてしまう傾向があるのは、自分に自信がないために内面にある想いを外へ発信する勇気がないためではないかと考える。そこで、まずは○△×で考えを表すことから始め、少しずつ段階を経て文章を練っていくことで、自分のペースでじっくり自分の考えをまとめられるようにする。

##### ②「読み・書き・考える」を繰り返させる工夫

生徒に「これは何だろう、なぜだろう、これでいいのだろうか」と問いかけ、正面から粘り強く考える姿勢を求める。生徒は、身近な友人が同じ課題にどのように取り組みどのように表現するかということには非常に興味を示すので、それぞれの書いた文の良い点を見出し、さらに引き出していくという関わり方で、それぞれが自信を持って意欲的に考え続けられるようにする。

##### ③全員に取り組ませる工夫

キーボードのボタン一つで操作できる記号化された言葉のやりとりがあふれている現在、原稿用紙を前に丹念に言葉を紡いでいく作業は生徒にとっては面倒なものであり、全く取り組む意欲を持たない生徒もいる。そこでグループ学習を取り入れて、お互いの意見を尊重し、共感し、良い点を認め合うかたちで展開し、班員全員の意見を入れた合体意見文を創るというゴールに向けて、脱落者がでないような授業を展開する。

### 3 指導の実際

- 1時 「ものに頼らず、心で接しよう」という文章を読み、全員が一文ごとに○（賛成）△（どちらでもない）×（反対）の印を付ける。教師がとりまとめ、○×の双方がついた文をピックアップする。
- 2時 班に分かれて、その中からテーマとして取りあげる一文を選ぶ。テーマについて各自150字で意見文を書く。
- 3時 班員の意見を互いに読み合い、他の生徒の良いところをピックアップして、それをもとに各自で400字程度の意見文をつくる。
- 4時 班員の意見を合体させた合体意見文（600字程度）を、教師の音読で聞き、全員が評価プリントを用いてそれぞれの作品を採点する。
- 5時 評価の分析をする。さらに、評価の良くなかった2作品について、全員が2つに分かれ、より説得力のある作品になるように工夫を加える。（詳細は指導案）
- 6時 各自が考えた具体例を評価し合い、良い文章の条件とは何か、再確認する。

C-1 指導案

C-2 意見文が完成するまでの過程

C-3 ワークシート

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ①これまでの授業形態では、書くことの好きな生徒は積極的に書き、書けない・書く意欲がない生徒は全く取り組まないということが多く、良い作品の紹介をすると、どうしても同じ生徒のものに偏った。しかし合体意見文を創るという目標を持たせることで、意欲の差はあれ全員に取り組ませる事に成功した。またグループで一つの作品を作り上げる達成感を味わう機会を与えることができたのは良かったと思う。
- ②班員の意見文を読み合いながら自分の意見を創っていくという過程で、個人的な思いこみで主張するのではなく、他者の意見にも目配りして、誰が聞いても納得するような文章を書く必要があるのだということを理解したようだ。具体例をあげることや論理的に書くことについては、教師の指示がなくてもできるようになった。
- ③それぞれの意見文に対して、共感し、良い点を認め合うということを大切にした授業だったためか、とても明るく和やかな雰囲気が一貫してクラスに漂っていたように思われる。評価プリントの採点やコメントを見ても、良い点を見つけようという姿勢がうかがわれた。

#### (2) 課題

- ①班員の意見をまとめる段階では、予想以上に高度なテクニックが必要であることがわかり、教師がその箇所を引き受けざるを得なくなってしまった。今後このような取り組みを行う場合は、複数の文章をつなぎ合わせる力を生徒につけていかなければ、真の意味での班員だけの意見文というものにはならないであろう。
- ②それぞれが書いたものを班で読み合い、話し合い、一つのを創っていくという流れを想定していたが、話し合う力をトレーニングしていないので、どの班でも活発な意見交換が行われていなかった。班構成の問題もあるだろうが、今後意見を述べ合う力を育てることで、この取り組みがより実りあるものになっていくと考える。

事例30 単元「武家社会の展開と室町文化」

## 歴史に名を残した人物の履歴書作りをしてみよう！

地歴 日本史B 第2学年

石川県立金沢西高等学校・教諭

### 1 事例の概要

本校の最大の特徴は単位制であり、それは学年の区分を取り払い、3年間で必要な単位を取得して卒業するシステムである。2・3年次には一人ひとりの進路に合わせて自分の学びたい科目を選び、自分だけの時間割を作ることが出来る。生徒たちは、与えられたことはやり遂げようとはするものの、主体的に学ぼうとする姿勢の不十分な生徒もおり、進路志望先は大学・短大・専門学校進学、就職などさまざまである。

さまざまな進路志望を持つ生徒たちを相手に、授業を進めるにあたっては、日本史に少しでも興味・関心を持ってもらうことを心がけ、生徒に問いかけをしながら、歴史の一場面を身近な話に例えて話してみたり、先達の偉業や歴史のこぼれ話などもできる限り紹介している。ただ、限られた時数の中で教科書を終えようとすることに追われ、教師による一方的な授業に終始するという状況はなかなか改善できないでいる。そこで今年度は、授業を通じて、生徒自らが歴史について少しでも「学びたい」と思う気持ちを育てられないものか、また少しでも主体的・発展的な学習の機会を生徒に提供できないものかという思いから、歴史上の人物履歴書作りという調べ学習を取り入れてみた。

年に数回（古代、中世、近世、近現代それぞれの時代に登場する代表的な人物調べ）とはいえ、生徒が調べて、発表するというスタイルの授業を取り入れることによって、生徒一人一人が授業で学んだことをより確かなものとして、自ら主体的に学ぼうとする姿勢を身につけるきっかけとなっている。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ① 建武の新政、動乱期に成長した守護大名とその支配体制について把握し、室町幕府の組織・経済的基盤および守護大名との関係について考察する。日明貿易をはじめ室町幕府の外交政策について、当時の東アジアの動向を踏まえた上で理解する。
- ② 室町期における社会経済の発展、下剋上の社会について理解するとともに、室町文化について、東アジアの動向を踏まえながら理解する。また、戦国大名の領国経営と都市の発達について考察する。
- ③ 歴史上の人物の履歴書作りに取り組み、調べた人物の業績等について、基本的事項を踏まえた説明ができる。

#### (2) 指導上の工夫点

- ① 指導法や学力定着の工夫
  - ・ 授業は板書時間の節約や調べ学習時間確保のため、授業用プリントを配布して進める。
  - ・ 提出された人物履歴書は教師が評価した上で返却する。そして、グループ内で発表し合い、他者の発表内容の要点をまとめることによって調べ学習の成果を共有する。
  - ・ 人物履歴書の中から特に優れたものについて、教師が全体の前で発表し、補足説明を行うことによって、学習内容の定着を図る。
- ② 評価の方法
  - 人物履歴書は基本的にはA・B・Cの3段階（内容によっては④もあり）で教師が評価し、前期及び学年の評定に加味する。

**B-1 人物履歴書**

### 3 指導の実際

#### (1) 本時

学習活動・時間	生徒の活動
導入・5分	学習の目的や流れの確認
展開Ⅰ・25分	教師の発問に答え、板書事項を授業用プリントに記入する。
展開Ⅱ・15分	グループ分け（1グループ5～6名）・調べる人物の決定・人物履歴書作り
まとめ・5分	人物履歴書完成・発表準備・提出、本時の内容の確認

#### (2) 次時

学習活動・時間	生徒の活動
導入・3分	学習の目的や流れの確認、グループ内での発表の意義の確認
展開Ⅰ・10分	各グループ内での発表・それぞれの発表内容の要点まとめ 内容の優れた作品について、教師による全体への発表と補足説明を聞き学習内容を定着させる。

#### C-1 指導案

### 4 成果と課題

#### (1) 成果について

##### ① 調べ学習への積極的な取り組み

「今回は江戸時代の誰々について調べてみたい」という声が聞かれるなど調べ学習に積極的に取り組もうとする姿勢が見られた。教科書・図説・用語集だけでなく、図書室の本やインターネットなどで知りたいことを調べるといふ生徒も見られ、生徒自らの学びたいという気持ちを引き出すということについては一定の成果があった。また、各グループ内での発表では、素晴らしい発表に対して自然と拍手がわき起こることもあった。

##### ② 学習内容の深化

多くの生徒が「歴史を学ぶ」ということを、単に「テストに出そうなことを暗記すること」ととらえている。しかし、歴史上の人物を調べていくうちに、その人物の断片的なイメージではなく大まかな全体像をとらえることができるようになった。また、生徒は幾つかの新たな発見をして、調べた人物についての見方を広げたり、深めたりして学ぶことの楽しさの一端を知り、そのことが次の調べ学習への意欲を高めたり授業に臨む態度の向上につながった。

#### (2) 課題について

##### ① 学習成果の共有化不足

自分が調べた人物については、詳しく説明するものの、他者の発表内容をまとめ、理解しようとする姿勢には欠ける生徒がおり、一人一人が調べた成果をグループ内で共有化し、知識の定着を図ることについては課題を残した。また、調べることそのものには抵抗なく積極的に取り組めるものの、グループ内での発表となると尻込みしてしまう生徒が一部に見られ、そうした生徒に対する働きかけも今後の課題といえる。

##### ② 授業内容の精選

単元ごとの学習内容の定着を図り、主体的に学ぶ姿勢を育むためには、1単元の終了前後に50分の時間をかけて調べ学習を実施していくことが理想である。しかし、実際にはそのような余裕がないため、調べ学習を実施する時間も限られてくる。図書室やインターネットを使った50分の調べ学習を実施していくためには、これまで以上に授業内容の精選を図る必要がある。

事例31 単元「大きな政府と小さな政府 ―政府は経済に介入すべきか―」

## 経済的事象を考えるための視点を育てる授業

公民 政治・経済 普通科・第3学年

石川県立金沢錦丘高等学校・教諭

### 1 事例の概要

昨年来、M&Aをはじめ株取引をめぐる話題がマスメディアを賑わせてきた。国民の経済問題への関心も高まり、それに伴って興味をもつ高校生も増加している。本校の生徒にも同様の傾向がみられ、日頃の経済分野の授業を通して、積極的な姿勢がうかがえる。しかし、複雑化、多様化した現代の経済的事象は、その理解にあたって、生徒に難解な印象を抱かせる。また、今後もそのような印象を抱かせる新たな事象が現れることも予想される。そこで、経済的事象の難解なイメージを少しでも払拭し、今後予想される様々な事象に対して生徒自身が考えるための視点を身に付けさせることができないものかと感じたことが、この授業を実施する契機となった。

「高等学校学習指導要領解説」公民編では「政治・経済」の内容(2)「現代の経済」の内容の取扱いについて、「経済的事象を取り上げるに当たっては、…中略…希少な資源をいかに配分するかという選択の問題が基本的な問題として存在していることに気付かせることが大切である」としている。そして、その選択において効率性の追求が目指されるとした上で、効率性の追求だけでは所得分配などの公平性や公正さが必ずしも実現されないこと、逆に公平性や公正の観点だけでは資源の配分が非効率になりうるとして、「現実の経済においてはこのような効率性と公平さとの間の矛盾、対立を調整することが要請されていることに気付かせる必要がある」としている。

今回の授業はその点を踏まえて、効率性と公平性の問題を経済的選択（トレードオフ）の問題として捉え、経済的事象を考える上で必要な視点を育てることを目標としている。

#### A-1 学習指導要領解説等からみる経済学的視点

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ① 経済の基本的な概念である「効率性と公平性との間の矛盾や調整」について、トレードオフの問題として捉えることができる。
- ② 経済の基本的な概念の理解の上から、事実に基づいて多様な角度から「大きな政府と小さな政府」について対比して考察することができる。
- ③ 経済学の理論と現実の経済的事象との相互関係を理解し、自ら経済問題を考える際の視点を身に付ける。

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

- ① 生徒が効率性と公平性の問題を考えやすくする題材の選定

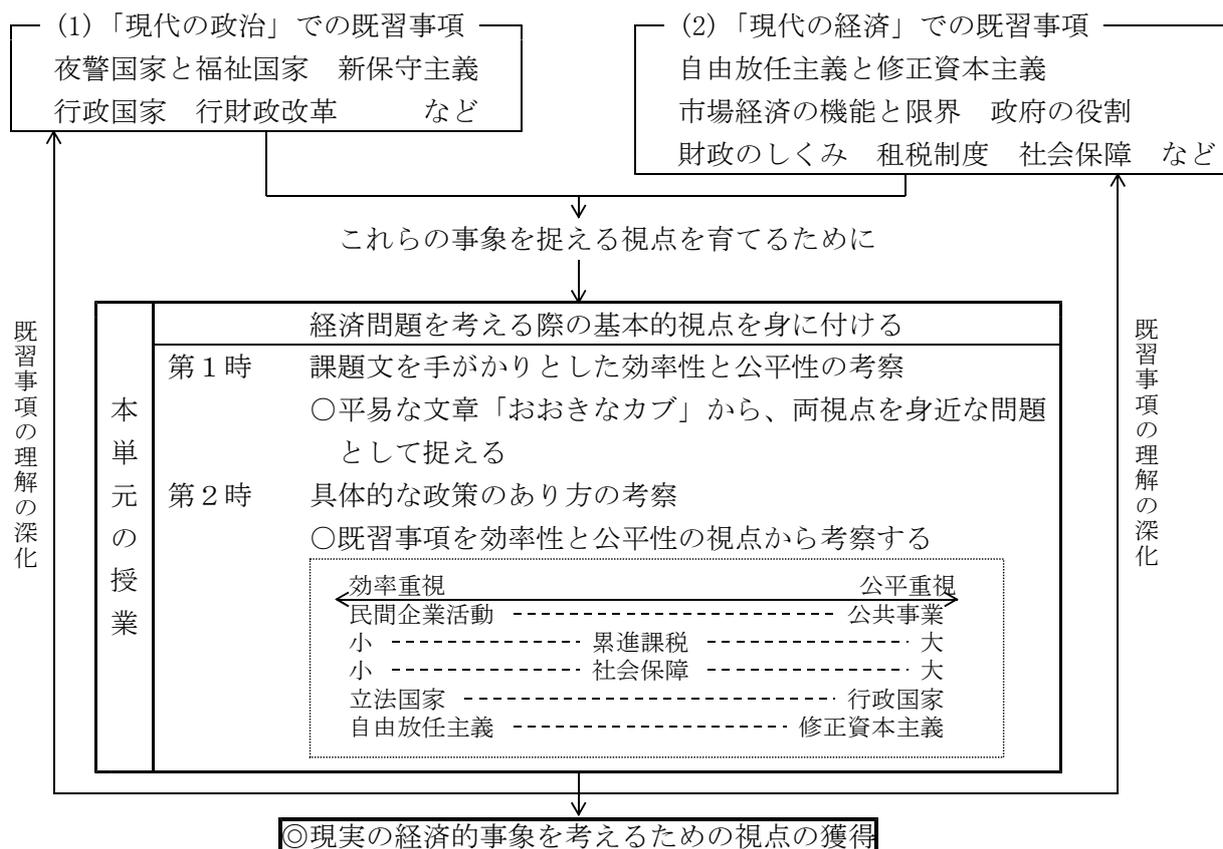
経済教育では、具体的、時事的な問題から経済理論を考察させるアプローチが多い中で、視点を重視するために、平易で、対比させやすい課題文を選定した。また、対比を明確にするために、必ずどちらかの立場をとらせるように問を投げかけた。

- ② 既習事項を生かして総合的に考察するための工夫

効率性と公平性のどちらを重視するかは、経済的な問題だけでなく政策によるところも大きい。そこで、大単元(1)「現代の政治」での学習内容と(2)「現代の経済」での学習内容を本授業の成果を生かして考察することで、政治・経済への追究を深めることができるよう考慮した。

#### B-1 課題文によるワークシート

### 3 指導の実際



C-1 指導案

C-2 生徒の意見

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① ワークシートによる効率性と公平性の考察について

ワークシートを見ると、平易な文章を選択したことにより、生徒は経済的な問題をこれまで以上に自分に関わるものとして考えられたようである。また、自分の考えを書かせる際にも、専門的な用語を使用する必要がなくなったため、素直に意見をまとめることができたと思われる。

##### ② 具体的政策の総合的考察について

過去の授業の感想をみると、本単元学習前の生徒は「高所得者の所得は最大限分配すべき」「生活保護は金額が多いほどよい」「雇用保険や最低賃金は充実させればさせるほどよい」という意見が圧倒的であった。しかし、今回の授業の感想を口頭で聞いたところ、効率か公平かという視点から政策を考える姿勢が身に付いたようである。具体的な経済的事象から授業を展開するだけでなく、本授業のようなアプローチも効果があることが分かった。

#### (2) 課題

##### ① ワークシートによる効率性と公平性の考察について

ワークシートには、最初の自分の意見を述べるスペースのみを設けたが、他の生徒の意見を参考に反対意見をまとめた上で、再度自分の意見を述べるスペースを設けるべきであったと感じた。その方が、より両視点を対比して考えた成果が、生徒の手元に残ったと思う。

##### ② 具体的政策の総合的考察について

本単元にもう少し多くの時数を割く必要を感じた。時数を確保することにより、第2時において、生徒自身が興味ある効率性と公平性に関わる問題を探し、調べ学習を行ってレポート作成を行えば、より充実した授業になると感じた。

## トイレットペーパーの長さを求める

数学 数学B 普通科 第2学年  
石川県立富来高等学校・教諭

### 1 事例の概要

理数離れが問題になって久しいが、本校でもこの問題は深刻である。教材に全く興味を示そうとしない生徒、すべて受け身でただ与えられた問題を解くことが数学の勉強だと思っている生徒などが多く、主体的に数学を学ぼうとしない傾向が見られる。

そうなった根本原因のひとつに、「生活体験の不足」があげられる。自然体験、社会体験、工作体験の貧困化などである。数学の世界でも「数学体験」とでもいえるものを、授業の中でどんどん取り入れる必要があるように思い、いろいろな取り組みをやってきた。

本事例では、トイレットペーパーといった身近な題材で数学の考え方がどのように活躍するかを体験させることで、これから少しでも数学に興味を持って取り組むきっかけとしたい。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ① 数列に関心を持ち、身近な問題に活用する。
- ② 等差数列の和の公式を用いて具体的な事象を考察し、数学の有用性を体感する。
- ③ 等差数列の和の公式が、平均値でならずという見方と同じだということを理解する。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 教材選択の工夫

- ア 身近な題材を提供することで、自然に問題に取り組めるようにした。
- イ 一つの考えに縛られない、自由な発想が出来る教材を選んだ。
- ウ 高校で学ぶいろいろな題材が関係している教材を選んだ。
- エ 後程学ぶことになる事柄の発想が、自ら発見出来る教材を選んだ。

##### ② 指導法の工夫

- ア まず、本校で使っているトイレットペーパーを提示し、これから得られる情報を得る。
- イ 次に、簡単な数値のトイレットペーパーを提示し、それについて考察する。
- ウ 最後に、先ほど考察した考えの中で、自分の気に入った方法を選び、本校で使っているトイレットペーパーの長さを求める。

##### ③ 数学的活動の工夫

- ア 生徒からいろいろな発想を引き出し、ひとつひとつの考え方に沿って考察する。
- イ 思考を巡らすことで、問題を少しずつ簡単にし、数学の発展を体験する。
- ウ 簡単な数値で考察することで、解法を整理する。（文字を使わない）

##### ④ 評価の工夫

本時に考察した方法のうち自分の好きな方法を選び、本校で使っているトイレットペーパーの長さを計算させ、プリントを回収する。

### 3 指導の実際 本時の展開

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】（評価方法）
学校で使っているトイレットペーパーの長さをどうやって測ったらよいだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものさし等を使って、得られる情報は何か。</li> <li>その情報から、更に計算などで得られる情報は何か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレットペーパーの厚さは、どれくらいか。また、その情報をどうやって得ることが出来るか。</li> </ul>	既習の知識を活用して長さを求めようと積極的に取り組もうとしているか。 <b>【関心・意欲・態度】</b> （観察）
簡単な数値のトイレットペーパーに対し、その長さを求めてみよう。 (内側の半径5cm、外側の半径10cm、紙の厚さ0.02cm)	<ul style="list-style-type: none"> <li>等差数列の和の考え方</li> <li>平均値の考え方</li> <li>積分の考え方</li> <li>長さ（1次元）を考えるのに、面積（2次元）を利用する。</li> <li>本校のトイレットペーパーの長さを求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均値の考え方と等差数列の和の公式は同じ発想であることを確認する。</li> <li>思考を巡らすことで、解き方が少しずつ簡単になっていくことに注意を促す。</li> </ul>	本校のトイレットペーパーの長さが求められるか。 <b>【知識・理解】</b> （プリント回収）

C-1 指導案

C-2 解法

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

本校のトイレットペーパーで、実際に授業を行ってみた。すると、実際の長さとはほとんど同じ値が出てきたので、生徒は驚いていた。数学が役立つ一場面が見られたような気がした。また、数学のいろいろな教材が独立に存在するのではなく、密接に絡まっていることが理解されたようである。このように、有機的に学習することは、本当に数学がわかったという実感を持たせることになると考えられる。さらに、現実の問題に対して、授業で学んだことをどのようにして使っていくらよいかの練習が出来たことも成果といえる。

日頃は机上の計算を中心とする授業が多いが、このように身近な題材を考察することに対し、まず新鮮みを感じていた。ただ、具体的な題材に対して、どのように取り組んだらよいかで、とまどっている生徒も多く見受けられた。しかし、教師が少しずつヒントを出す中で、授業で学んだ等差数列の和の公式が使えることに気付いていった。学んだ知識が生かされる経緯を体験したことで、数学の学習のありがたみが分かったようである。

#### (2) 課題

授業では数値が扱いやすい場合を考察したが、実際に本校で使われているトイレットペーパーは扱いやすい数値ではない。細かい数値が出てくると、途端に思考をストップしてしまう生徒も見受けられる。それなら文字を導入して考察すれば良いという考えもあるが、残念ながら本校の生徒は文字にすると、現実味を感じなくなって、元の木阿弥である。そこで、まずきれいな数値で考察し、そこから公式を導き、実際の値を代入する方法を採用した。しかしながら、いつまでもそうするわけにはいかず、文字を自由に扱えることも出来るようにする必要がある。

このように生徒が学んだ知識が現実問題に役立つということを、もっと生徒に提供する必要があるように感じる。そのような教材開発はこれからの大切な課題だと考えられる。

### 5 参考文献

「数学はこんなに面白い」 岡部恒治著 日本経済新聞社 2004

## アニメーションで粒子運動のイメージをつかむ気体の学習

理科 化学Ⅱ 普通科・第3学年  
石川県立金沢泉丘高等学校・教諭

### 1 事例の概要

本校の生徒は、高い希望を持って日々の学習を行っており、学習意欲も旺盛である。また、物事の本質を知りたいという欲求も高い。平成18年度から2クラスを3つのグループに展開することを基本とした習熟度別授業を導入したところ、発展グループでは前述した傾向がさらに強くなった。

気体の学習などでも、単なる法則の暗記と適用ということでは、生徒の知的好奇心を満足させることはできない。温度による膨張や収縮などを実験として行わせたとしても、気体分子の熱運動を基本とした化学の本質を学ぶことは難しい。また、図説や資料を用いても、これを紙上で再現することは不可能である。

このような目に見えない粒子の運動を理解するためには、気体分子の熱運動をコンピュータでシミュレート、温度や体積などを変えて分子の動きを仮想的にアニメーションで見せることが効果的であると考え、授業実践を行った。小テストなどの結果から、粒子概念をもとにした気体の理解が行われていることが確認された。

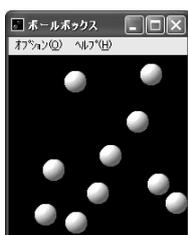
### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

気体分子の熱運動をもとにして、気体の諸法則を理解し、様々な場面に応用できるようにする。

#### (2) 指導上の工夫点

フリーウェアを用いて、① 気体分子の熱運動、② 混合気体、③ チンダル現象について指導した。画面は液晶プロジェクタで投影し、諸条件を制御して生徒にシミュレーション画像を提示した。



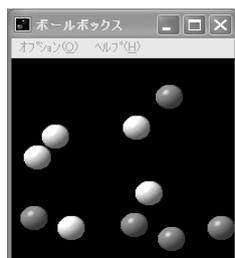
#### ① 気体分子の熱運動

左図のように気体分子の熱運動をアニメーションで見せる。気体分子の数、速度、Windowの広さは可変である。以下の事柄について授業で生徒に指導した。

分子数の制御・・・物質による圧力の違い（点の数で表現）

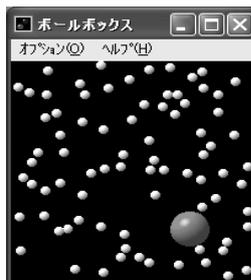
速度の制御・・・温度による圧力の違い（点の速度で表現）

体積の制御・・・体積による圧力の違い（Windowの面積で表現）



#### ② 混合気体

気体の種類によって色を変えることが可能であり、混合気体を左図のように表示させることができる。これより、全圧＝成分気体の分圧の和が理解できる。



#### ③ チンダル現象

本来は溶液で見られる現象であるが、気体であっても原理は同じである。コロイド粒子の質量と大きさを他の粒子に比べて大きくし、チンダル現象を再現できる。

### 3 指導の実際

学 習 内 容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
○粒子数による変化	○気体分子が増える と圧力が増加する ことを理解する。	○ボールボックスを 用いて、それぞれの 現象について値を 制御し、説明しなが ら生徒にシミュレ ーション結果を見 せて説明する。	○気体分子の熱運動 を理解する。 【知識・理解】 (観察・発問) ○圧力や体積の変化 を気体分子の熱運 動をもとに考える ことができる。 【思考・判断】 (観察・発問)
○熱による変化	○気体分子の持つエ ネルギーが増える と圧力が増加する ことを理解する。		
○体積による変化	○体積を減らせば、圧 力が増加するこ とを理解する。		
○混合気体の圧力	○混合気体の圧力は、 各気体の分圧の和 であることを理解 する。		

#### C-1 指導案

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① 気体分子の熱運動による気体の性質の統一的理解

最初の授業で粒子概念の形成が適切になされたため、ボイル、シャルルなどの法則についても単に覚えるのではなく、気体分子の熱運動と適切に関連づけて学習を進めることができた。より発展的な問題演習についても、解決の糸口を見いだすことができる生徒が増えた。実際に、気体の状態方程式が終わった段階での小テストでは、8割以上の生徒が全問正解し、その解答内容も図解を用いたものが多かった。気体分子の熱運動を中心に据えて、単元全体の基礎から発展にいたる確かな学力が身についたといえる。

##### ② シミュレーションの効果の理解

コンピュータシミュレーションで、実際に目に見えないことを表現する、あるいは実験できないことを確かめることができることを生徒に理解させることができた。

#### (2) 課題

##### ① 他の習熟度別グループへの導入

校内の研究授業では、「視聴覚機器を用いた授業は大変効果があることがわかった。このような授業は習熟度の低いクラスでこそ効果を発揮するのではないか。」との指摘をいただいた。

##### ② 視聴覚機器の設置

この授業を行うためには、液晶プロジェクタによる投影が必要である。これが天井吊り下げで常設されていれば、もっと気軽にこのような授業を展開することができる。

##### ③ 生徒自身にシミュレーションを行わせる

生徒自身にシミュレーションを行わせることで、より深い理解が得られると期待している。

## 車のモニターから輪実～七尾駅の距離を求めてみよう

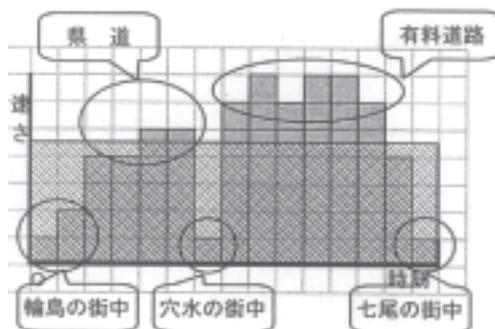
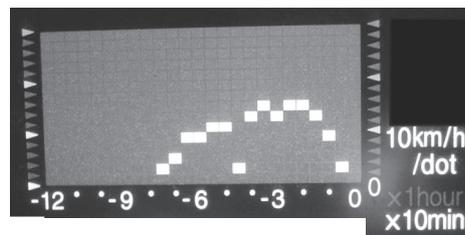
理科 物理 I 電子機械科・インテリア科第3学年  
石川県立輪島実業高等学校・教諭

### 1 事例の概要

本校では、工業系の3年生(11名)のみが物理Iを選択している。生徒は表面上では明るくても、基礎学力が定着しておらずに苦しんでいる者が少なくない。そのような生徒たちに、少しでも成功体験をさせ、自分に自信をもつことによって成長してもらいたいと考えている。

そのために生徒の実態を踏まえて、授業に対して生徒が意欲的に取り組めるような仕掛けが必要である。速さ・時間・距離の関係は、もともと生徒の苦手意識が強く、学習意欲がわきにくい分野である。本事例は、工業系の生徒にとって関心が高い車を使用し、授業者が実際に走行してデータを取り、学校から七尾駅までの距離を身近な題材にした「課題解決型学習」を導入することで、少しでも生徒が意欲的に学習に取り組めるように考えたものである。

速さが一定でない  $v-t$  の関係からの距離を求める問題に対して、教科書で紹介されている区分求積法の考え方は、生徒の実態を考えると理解が難しいと考える。区分求積法が確立していなかった時代のガリレイら近代の科学者は、「平均の速さ」を求めてから距離を算出していた。本事例ではガリレイらが用いた手法を導入し、生徒全員が課題を解決できることを目指した。



### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

日常生活の中で観察をとおして、いろいろな運動を見だし、運動を記述する方法を調べる。  
また、変位・速度・加速度を扱うなかで、「変位と時間」「速度と時間」等の関係を理解する。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 授業形態の工夫

「課題解決型学習」を導入し、目標のはっきりとした課題を解決して行くなかで、生徒が意欲的に取り組み、そこから自然科学の概念・法則を身に付ける授業形態を取り入れる。その中でも、【課題】をしっかりと把握させるために、前段階としての【作業】を重視する。

##### ② 生徒の実態を踏まえた指導法

平均の求め方、分から時間への単位変換、分数のかけ算等の基礎学力に不安を抱えている生徒が数多くいることに十分に配慮し、一人ひとりの生徒に応じたきめ細かい支援を心掛ける。

##### ③ 教材と提示の工夫

ワークシートはできるだけ簡素化につとめ、生徒が混乱することなく主体的に課題解決できるように工夫する。また、グラフ作成の指導等においては、画像を取り込んだパソコン画面をプロジェクターでスクリーン上に映すことで、生徒の理解を深める工夫をする。

##### ④ 評価と指導との一体化

「本時のふりかえり」を行い、自己評価をしたり授業の感想を書くことによって、自分を振り返る時間を設定する。また、評価規準と自己評価の項目に整合性をもたせ、授業者と生徒間で意識の差を少なくするとともに、次時の授業展開を適切に行うよう工夫する。

### 3 指導の実際

	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準
(導入)	○本時の目標を：つかむ。	○車のモニターと教師の説明から、七尾駅までの実際の走行をイメージする。	○モニターのドットひとつひとつに対して、どのあたりをどのような状態で走行していたか、物語的に詳しく説明する。	○【関心・意欲・態度】 興味をもって作業にとりくみ、実際の走行を意欲的にイメージしようとしている。  ○【知識・理解】 「v-tグラフ」から移動距離を求めることができる。
〔作業〕	(1)車のモニターから、「v-tグラフ」を棒グラフであらわそう。 (2)グラフから「平均の速さ」は何km/時になるか、見当をつけてみよう。			
〔課題〕	(1)「v-tグラフ」から正確に「平均の速さ」を求めよう。 (2)この「平均の速さ」を使って、七尾駅までの距離を求めよう。			
〔まとめ〕	(1)“蛍光ペンで囲まれた長方形”の面積が、七尾駅までの距離である。 (2)「v-tグラフ」と“蛍光ペンで囲まれた長方形”の面積は等しい。 (3)七尾駅までの距離は、「v-tグラフ」の面積から求められる。			
(ふりかえり)	○「本時のふりかえり」を行う。			

C-1 指導案

C-2 ワークシート

C-3 評価用紙

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① 学習意欲の向上

##### ア 課題解決型学習の導入

課題解決型学習を取り入れることで、生徒が主体的に活動することができた。また、課題を解決していくなかで、さまざまな基礎的学習の復習にも意欲的に取り組むことができた。

##### イ 生徒にとって身近な題材

身近な題材を扱うことによって、生徒は興味を持って課題に取り組んでいた。また、「50分の授業のために、先生はわざわざ七尾まで行ったんやなあ。」と発言する生徒もいて、授業者と生徒との間で、ひとつの授業を大切にしようという同じ思いが生じた。

##### ② 達成感

生徒にとっては難しい課題であったが、教師の支援を受けながらも、生徒全員が自分の手を使って課題を解決することができた。生徒たちは達成感を感じていたようで、本授業が小さな成功体験になったことと思う。

#### (2) 課題

##### ① 「学び合い」をする場面の設定

本時では、ほとんどの生徒が教師による支援を受けながら課題を解決していた。そのため、生徒同士の意見交流によって、課題を解決することはできなかった。「学び合い」をする場面を設定し、生徒同士が小集団の中で考えを深め合えるように配慮する必要があったと考える。

##### ② 生徒にとっての自己評価の意義

自己評価を行うことで、生徒は自分の学習態度をふりかえることができたが、それが次の学習態度へ繋るまでには至っていない。自己評価の意義をしっかりと理解させていきたい。

D-1 評価用紙の集計

## 主体的・発展的な自学自習で育む達成感

保健体育 保健・第2学年  
石川県立穴水高等学校・教諭

### 1 事例の概要

生涯にわたって「運動に親しむ」そして「自己の生活の中に運動を取り込む」生徒を育てようとする時に、我々は体育の授業を通して、楽しさや喜びを味わわせることに力を置くが、保健の授業を通して、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していくための基礎を培うことも重要である。さらに、自ら設定したテーマに基づいた課題解決学習は、前向きな気持ちや粘り強く物事に取り組む意欲を育み「確かな学力」を身につけていくことに寄与し、進んで健康を保持増進しようとする基本的な姿勢の確立へ結びつくと考えられる。

そこで例年、自分の興味・関心に基づいてテーマを設定し、放課後や夏休みに学校や町の図書館を利用しながら、レポート（書式用紙30枚以上）を作成している。この作業は授業とは別の時間に行ない、自らの課題学習の内容を深化拡大しながら、主体的で発展的な自学自習の機会とし、自らのライフスタイルに良好な影響を与えることを期待している。

なお、本実践の最終場面では、11月3日の文化の日に開催される本校学園祭、穴水町の町民文化祭、隣接する石川職業能力開発短期大学祭の合同文化祭での展示発表により、800人近くの地域の人達に作品を見ていただくことができた。

#### A-1 研究テーマ

### 2 実践内容

#### (1) 項目の目標

- 健康の保持増進に必要な事柄について関心を持ち、資料を収集しながら課題を見つけ、意見交換しながら意欲的に学習しようとしている。（関心・意欲・態度）
- 健康の保持増進に必要な事柄について、これまでの体験や資料などを基に、他の人の意見や考えなどを聞く中で、課題の設定や解決の方法を考え・判断できる（思考・判断）
- 健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選び、実践することが必要であることを理解し、個人及び社会生活の健康や安全についての知識を身に付けている。（知識・理解）

#### (2) 指導上の工夫点

- ① 学びの姿勢として具体的に示していること。

「考える」

- ・自分のこれまでの体験や学習などをもとにして考える
- ・目標をイメージさせ、どのレベルまで達成できるか考える
- ・目標に到達するための計画を考えさせる

「工夫する」

- ・効果的な表現法を模索する
- ・仲間と話し合い、教え合う中から解決する
- ・教師に対しても積極的にアドバイスを求める

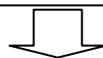
- ② ワークシート（自己評価・他者評価の欄を設けた）を活用し、それぞれのテーマに応じた個別の質問を与える。それらを考査範囲に含め、学習の定着化を図り理解度を確認する。

#### B-1 指導上の工夫点

### 3 指導の実際

#### (1) 生徒への事前説明（1時間）

- ①課題研究を行う意義
- ②発表の可否の確認
- ③作業の流れの説明
- ④課題テーマの精選
- ⑤過去の作品の鑑賞



#### (2) 各自の取り組み（放課後・夏休み等で個人差有り）

- ①全ての生徒の取り組み状態を確認する
- ②より効果的な表現・表記法を与える
- ③構成に戸惑っている生徒には早期に対処させ、流れを修正する

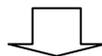


#### (3) 確認（3時間）

- ①作品内容の説明を受け点検する
- ②表紙等の作成を指導する
- ③発表と教師による補足を行う
- ④ダイジェストの作成を指導する

#### (4) 展示発表

- ①多くの地域の人達に見てもらう
- ②アンケートの実施（展示会場の見学者に優秀作品の投票・感想等）



#### (5) まとめ

展示発表後の最初の授業でアンケートの実施（自己評価や授業方法についての意見・感想等）

C-1 指導案

C-2 生徒作品（レポート）

C-3 生徒作品（ダイジェスト）

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ・身近で興味・関心の高い、自ら選んだ研究に取り組むことにより、意欲を持ち続けることができた。作業は授業外の時間におこなわれるため、教師に対しての質問の仕方やアドバイスの求め方に工夫がみられ、生徒の積極的な学習への取り組み姿勢を引き出すことができた。
- ・学校祭での展示発表により、学校長や他教科の先生方、地域の人たちから発表内容や発表方法への賞賛が伝えられ、大きな成就感を味わえた。生徒達の振り返りには、その喜びだけでなく「・・・に苦労したけど・・・。」という感想が多かったように、困難を克服し完成させ、発表することができたという自信は、大きな財産となった。
- ・生徒の活動の様子を観察しながら、技能面でのつまずきを具体的に把握し、教師による個別で細かなヒントを与えることができた。その結果、すべての生徒が自分の活動を振り返り、進捗状況や完成度を高める具体的な手だてを、見つけることができた。

#### (2) 課題

- ・課題研究の意義には深い手応えを感じるが、学習活動を発表する機会を学校祭の中でも持つためには、発表方法に工夫が必要であり、そのための改善を図っていきたくと考えている。
- ・これらの取り組みが、生徒たちの確かな学力を身につけることに寄与しているが、授業以外での活動が多く、どの場面で何を評価するかという評価計画を作成することが難しく、項目の目標と合わせて検討しなくてはならないと考えている。
- ・教育活動全体へと広げていけるようにするためにも、他教科との連携を図りながら取り組んでいきたいと考えている。

## 一人ひとりの意欲を高めるための工夫

芸術 美術 I 情報デザイン科 第1学年  
石川県立大聖寺実業高等学校・教諭

### 1 事例の概要

人物クロッキーには、観察して描く写生表現の能力を高めるために身に付けさせたい多くの要素が含まれる。また、クロッキーは短時間で何枚もくりかえし描くことができ、1枚だけ描く場合の絵画制作に比べて、生徒が自らの描写力の成長を実感することができる。クロッキーから得られるメリットは大きいですが、生徒に取り組みせると、たとえば、細部（特に顔）にこだわり全体を描けない場合や、思い切った線描の表現ができない場合など、短時間で描くクロッキーの特徴を生かした表現ができず、目標に到達しないままに学習を終えることが多い。スケッチやクロッキーは、継続的な取り組みが望まれるが、3段階に分けて描き方のポイントを明確にした短期間での取り組みを計画し実践した。

### 2 実践内容

#### (1) 題材の目標

細部にとらわれずに人物全体のバランスや動きをかたまりでとらえて描く力を身に付けさせ、描画材料の特徴を生かした線描による豊かな表現を追究させたい。また、短時間のクロッキーを繰り返しながら、意欲的に取り組みせ、描画することの面白さや楽しさをクロッキーをとおして味わわせたい。

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

3段階に分けてクロッキーの描き方のポイントを生徒に理解させ、意欲を持続させながら各段階ごとの描写方法を確実に身に付けさせる。

##### ① プロポーションをかたまりでとらえさせる。

- ・骨格図でプロポーションと骨格の関係を確認させ、骨格図にタテ軸・ヨコ軸を描かせる。
- ・モデルを観察して、体の軸を見つけさせ、コンテで軸を描かせる。
- ・軸にコンテで肉付けさせる。（体のシルエットを塗りつぶすように描かせる。）

##### ② 動きをとらえさせ、線を描き加えさせる。

- ・コンテで肉付けしたシルエットに、体の動きをコンテの線で描かせる。
- ・正確な形よりも線の勢いを重視させ、線の表情を意識させる。

##### ③ 線で描画させる。

- ・コンテの線のみで表現させる。
- ・鉛筆の線のみで表現させる。

### B-1 題材の評価規準・学習活動における具体的評価規準

### 3 指導の実際

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導（・）と留意点（*）
プロポーションをかたまりでとらえる。	○人体のプロポーションと骨格について学習する。 ○モデルを観察して、体の軸を見	・プロポーションと骨格の関係を骨格図で確認させ、タテ軸・ヨコ軸を描かせる。 ・モデルのポーズから、体の軸を見つけさ

	つける。  ○かたまりでとらえて、コンテで軸に肉付けをする。	せ、軸をコンテで描かせる。 *モデルは立ちポーズで、シンメトリーなポーズはさける。 ・コンテの特徴を生かして、シルエットを塗りつぶしながら軸に肉付けをさせる。 *細部にこだわらずに、かたまりでとらえる見方を参考作品で確認させる。
動きをとらえ、線を描き加える。	○コンテで肉付けしたシルエットに、体の動きを線で描く。  ○線の表情を意識しながら描く。	・シルエットに、動きをコンテの線で描き加えさせる *正確な形よりも線の勢いを重視させる。 ・塗りつぶしを徐々に省かせ、コンテで線描させる。 *線の表情の違いを参考作品で確認する。
線で描画する。	○コンテの線で表現する。 ○鉛筆の線で表現する。	・かたまりと動きを線のみでとらえさせる。 *描画用具の違いによる線の特徴に気付かせる。

### C-1 指導案

## 4 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 段階の設定と目標の明確化

3段階に分けてクロッキーの制作を進めていくことで、段階ごとの目標が明確になり、生徒の制作意欲を高めることができた。また、短時間のクロッキーを何度も繰り返すことや生徒が交代しながらモデルをつとめて制作することにより、生徒の集中力をとぎらせることなく授業を進めることができた。

#### ② 自らの能力の高まりを実感

段階ごとにポイントを生徒に理解させながら描き進めさせていくことで、かたまりでとらえることを理解させたり、線の表情を生徒に意識させたりすることができた。また、何枚も繰り返し描いた作品のファイルを振り返ることで、短期間で見違えるように成長したことを生徒に実感させることができた。

### (2) 課題

#### ① 線のみでの描画への移行段階でとまどう生徒への指導方法

体の軸にコンテで肉付けしたシルエットの中に、動きを表現する線を見つけ出せず、線のみでの描画へスムーズに移行ができなかった生徒への指導にはさらなる工夫改善が必要である。

#### ② 描画材料の魅力と表現の幅の広がり

コンテから鉛筆へと描画材料を展開したが、ペンや筆などの描画用具の違いによる線の表現の違いとその魅力を理解させ、表現の幅を広げることにつなげていきたい。

### D-1 実践内容（教師の参考作品・生徒作品）

## 初めての文も怖くない！

外国語 英語Ⅱ 普通科第2学年  
石川県立金沢伏見高等学校・教諭

### 1 事例の概要

英語を習得するのに必要な技能はいくつかあるが、単語が分からなければ英語を読み、聞き、書き、話すことは難しく、意欲がわかないことになる。本校では一年次から週1回単語テストを実施し、自主的な学習を促してきた。しかし、自発的に学習する生徒は、アンケートの結果、「大体」「時々」を合わせ15%（一年次）であった。

今年度英語Ⅱの授業を担当するにあたり、通常の授業の流れを妨げないかたちで、毎回授業の冒頭に市販の単語帳を使用して語彙を増やす活動を8～10分間行った。さらに授業ではできるだけ英語を使用し、音声指導に力を入れ、生徒が授業中に発表する機会を多く設けるようにしている。

### 2 実践内容

#### (1) 題材の目標

- ① 語彙力の重要性を理解し、自主的に学習する態度や、外国語習得への関心・意欲を養う。
- ② 単語を正しく聞き取り、発音し、書き取る。正確に意味を理解する。

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

- ① 聞く・書く・発音する時間の明確な区分・・・集中力を持続させ、各技能の定着を図る。
- ② テスト用紙は両面印刷で、授業2コマを使い実施・・・  
1回目：オモテ面を使用。回収・検印し、努力した生徒にコメント等をつけて褒める。  
2回目：コメント等を参考にしてから、ウラ面を使用。
- ③ 単語学習から英語Ⅱへの自然な移行・・・暗記した単語を用いた英語による導入活動。

### 3 指導の実際

時間	活動	生徒の学習内容
休み時間	予習	①前回のテスト用紙を受け取る ②今日の単語の綴りや発音を確認する
2分半	テスト	発音を2回、ヒントの例文を1回ずつ聞き、単語10語の綴りと意味を書く
2分	採点・練習	①単語帳を開き、自己採点する ②用紙の空欄に、間違えた語を練習する（満点なら、次回の予習） ③終了の合図で用紙提出
2分半	復習	上の10語を、単語帳を見て、教師の後に続き、3回ずつ発音する (1): 綴りと発音記号を見て (2): 教師を見て(3): 意味も言う
1分	予習	次回の単語10語の発音を聞く

応答例 **T**: Teacher **S**: Student

**S**: How do you pronounce this word?

**T**: *Strive*. **S**: *Strive*. Thank you!

**S**: Number 826. *Sensible*. *Sensible*. Do you use the cellular phone in a *sensible* way?

**T**: Please check the answers and practice as many words as you can. You have 2 minutes. (机間指導) 9 Points!

You're terrific, Mr./Ms.~.(2分後) OK, stop writing. Please return the sheets.

**T**: Number 826. *Sensible*. **S**: *Sensible*.

**T**: Look up. *Sensible*. **S**: *Sensible*.

**T**: *Sensible*, 分別のある。 **S**: *Sensible*, 分別のある。 **T**: Can you use the cellular phone in a *sensible* way, Mr./Ms.~?

**T**: Just listen to the following 10 words for the next quiz. Number 921. *Silly*...

その後	教科書	本時の内容のオーラルイントロダクションを聞く
-----	-----	------------------------

T: Open your text book to page ~. We're going to learn about the *sensible* way of using technologies.

S: さっきの単語や...

C-1 指導案

C-2 テスト用紙と実際の使用状況

4 成果と課題

(1) 成果 (②、③は2006年10月末実施・2年生2学級73名対象)

- ① 初見の文に対して抵抗が少なくなった (生徒の声)
  - 「教科書や模擬試験の本文中に、覚えた単語が出てくる」
  - 「内容がつかめる」「進んで読む気になる」など
- ② 単語学習への意欲が増加 (選択回答のアンケートより抜粋)
  - 「自発的に暗記している」 (大体 / 時々)
    - …15% (1年次) → 83.6% (2年10月現在)
  - 「覚える意欲がある」 (大いに / 少し)
    - …20.5% (1年次) → 91.8% (2年10月現在)
- ③ 語彙力の重要性を認識 (自由回答のアンケートより抜粋)

【 ( ) 内は人数 】

質問: 授業で行っている単語学習について、どう思うか

回答: 「聞く・書く・発音する等、耳・手・口の感覚を全部使って効率よく覚えられる」(15)

「正しい発音や発音記号の読み方、綴りがわかる」(11)

「自分ではうまく発音できないが、先生の発音を聞いて練習すればできる・授業があるから続けられる」(17)など

質問: 単語を覚えると、今後の自分にどう役に立つと思うか

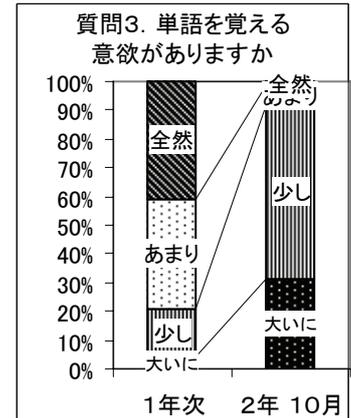
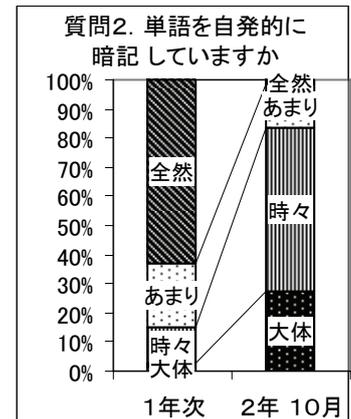
回答: 「長文などの読解や試験に役立つ」(36)

「話したいことが詳しく伝えられる」(10)

「日常生活・海外・外国人との会話・将来の仕事で役立つ」(15) など

④ 生活面での変化

生徒は授業前の休み時間に綴りを練習したり、発音の仕方を質問したりするので、始業ベルまでに着席を促す必要がなくなった。また、友達同士で点数を競うなど、クラス全体で単語の暗記に取り組む雰囲気が定着した。



D-1 生徒の意識 (アンケートの詳細)

(2) 課題

① 制限時間の厳守

週3時間の英語IIで、毎時間この活動に8~10分を割く。残り40分強で他の学習活動を行うため、数分単位の制限時間を守り、授業の密度を高めることが常に求められる。

② 覚えた単語の使用場面の不足

豊富な語彙力が今後の生活に役立つことを、生徒がより実感できるように、覚えた単語を使う機会をより多く設ける必要がある。生徒が引き続き語彙の獲得に励み、コミュニケーション能力を高められるよう、単語の使用場面を工夫していきたい。

## 乳幼児の言葉の発達

家庭 家庭基礎 普通科・第1学年  
石川県立金沢辰巳丘高等学校・教諭

### 1 事例の概要

本校普通科1年生は、外国語コース1クラス、芸術コース1クラス、普通コース3クラス、計5クラスからなる。4月、家庭基礎の最初の授業で行ったアンケートによると、中学校で保育園実習に行ったことや、絵本、幼児のお菓子、おもちゃを作ったことが印象に残っている、よく覚えていると答えた生徒が、多いクラスで67%、少ないクラスで41%であった。(全クラス平均50%)このことから、保育分野の学習に対する興味・関心は比較的高いと思われる。しかし、授業で保育を学習することに興味・関心はもっていても、普段の生活の中で高校生が乳幼児と触れ合う機会は少なく、保育への関心は薄くなりがちである。乳幼児を理解するためには、保育園実習を行うことが効果的であると思うが、本校は学校の立地条件により、授業の中で保育園実習を行うことが難しい状況である。そこで、できる限り授業の中で「生きた教材」に触れさせたいとの思いから、インタビューや視聴覚教材を使った学習を通して、保育への関心を持たせ、乳幼児を理解することを目指したい。さらに、新聞記事などの身近な教材を利用して、現代の子どもが育つ環境について理解を深め、これからの社会の課題についても考えさせたい。

### 2 実践内容

#### (1) 題材の目標

乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び子どもの福祉について理解させ、子供を生み育てることの意義を考えさせるとともに、子どもの健全な発達のために、親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

##### ① 学習への興味・関心を持たせるための教材の工夫

保育人形（実物大）、1歳児から5歳児が描いた絵（実物）、0歳児から6歳児と母親・保育士の会話（生の声をテープに録音したもの）、絵本など、乳幼児を身近に感じることでできる教材を準備し、生徒の興味・関心をひくようにした。

##### ② 学習定着のための工夫

乳幼児や母親・保育士の会話を聞き、ワークシートに書き込んだ後、発達の様子を確認する作業を行うことで学習の定着を図った。また、会話の中から周囲の大人の接し方について生徒自身が考え、気づくようにした。さらに、書き込みやすいワークシートの作成につとめた。

### 3 指導の実際

題材の指導計画（総時数8時間）

第一次 子どもの育つ力（3時間）

1時 発達段階とからだの発育・運動能力の発達

2時 乳幼児の言葉の発達 ----- 本時

3時 基本的な生活習慣と遊び

第二次 子育てと親の役割（3時間）

第三次 子どもの育つ環境（2時間）

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準
言葉の発達について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>テープを聴いた後、ワークシートの項目に従って答える。</li> <li>ワークシートに特徴を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>0歳から6歳までの年齢で聞き取った言葉、気がついたことについて発言させる。</li> <li>年齢別に特徴を説明する。</li> <li>テープの中で、現れなかった言葉の特徴について、補足説明する。</li> <li>言葉の発達には個人差があることを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児の言葉の発達について理解する。</li> </ul> <p><b>【知識・理解】</b> (ワークシート) (ペーパーテスト)</p>

**C-1 指導案**

**C-2 ワークシート**

**4 成果と課題**

**(1) 学習への興味・関心を持たせるための教材の工夫**

保育の授業後、生徒が教卓の周りに集まってきて、教師が持ってきた教材をもう一度触ったり、自分の経験や今日の学習について話をする姿が見られた。乳幼児の学習への関心がうかがえ、印象に残る教材の重要性を感じた。また、そのような生徒に支えられて授業もなごやかに、温かい雰囲気で行うことができたと思う。保育の学習にこの温かさはとても大切だと思う。

アンケート結果より、関わるができる乳幼児が普段周りにいる生徒が少ないこと、また、自分の乳幼児期のことを聞いたことが「あまりない」か「ない」生徒が半数以上を占めていることから、授業で乳幼児のことを学習するということが貴重な経験になっていると考えられる。アンケート結果や、「子供の成長、発達を聞いたことはあまりなく、何歳から言葉をお話するかなど分からなかったけど、実際に子供の声を聞いてみたら理解できました。」というような生徒の感想に見られるように、実際に乳幼児が話している声を聞くという今回の授業は、発達を理解する上で効果があったと思われる。具体的に乳幼児を理解できる教材をいかに準備するかが今後の授業でも大切になってくる。

**(2) 学習定着のための工夫**

乳幼児や母親・保育士の会話を聞き、ワークシートに書き込んだ後、発達の様子を確かめる作業を行うことで、学習内容を定着させることができたと思う。また、会話を聞くことで、教師が期待する以上のことを生徒は感じているのが感想から分かる。課題としては、50分の授業で6年間の言葉の発達を学習するという盛りだくさんの内容であるため、授業内容を消化することに気をとられがちであった。社会性の発達とからめた授業展開を考え、より乳幼児を理解できるようにさせたい。また、乳幼児と話すのは難しいと感じている生徒へのアプローチも重要だと考える。

**D-1 アンケート結果**

**D-2 生徒の感想**

## 個別のニーズを反映した卒業後の生活につながる授業づくり

家庭 第1～3学年

石川県立明和養護学校高等部 教諭

### 1 事例の概要

本校の高等部では、個別のニーズを①生活②作業・就労③余暇④社会性・コミュニケーションの4つの観点でとらえ、個々の目標を設定している。この個々の目標を反映した個別の指導計画に基づく授業づくりを行いながら、家庭科の年間指導計画を作成することを目標に、従来の家庭科の指導内容の見直しと改善を行った。その際、将来の実生活につながる指導内容を積極的に取り入れ、卒業後の生活を豊かにし、生きる力を育めるよう配慮した。

### 2 実践内容

#### (1) 「一人で留守番ができるようになる」という個別の目標から行った授業改善

##### ①単元の目標

- a. 昼食の準備が一人でできるようになる。
- b. ガスなどの安全性に気をつける。

##### ②指導上の工夫点

「留守番」をする場面は、土日や夏休みなどの日中が多いと考えられた。そのために昼食に向く献立を積極的に調理実習に取り入れた。また、今までは4～5人のグループによる調理が主であったが、家で行う場合は、一人で準備から後片付けを行うことを考慮して、できるだけ個人で調理できる環境を整備した。さらに「安全性」を意識づけるため本校調理室はIHのみであったが、卓上用コンロを用いてガスの危険性についても考えることができるように配慮した。

#### (2) 「服や靴下など身の回りのものが自分で購入できるようになる」という個別の目標から行った授業改善

##### ①単元の目標

- a. 服の名称など購入のために必要な知識を習得する。
- b. 服購入のロールプレイを体験し実生活へとつなげる。

##### ②指導上の工夫点

生徒たちは、生活単元学習でお菓子の購入などの経験を積んでいるが「服の購入」をテーマにした買い物学習はあまり行っていない。そこで、今回は、教室内の一角にいろいろなサイズや色の服を準備し、一人一人の生徒がロールプレイを通して、擬似体験を積むこととした。その中で、コミュニケーションの苦手な生徒に対しては、服の購入時に必要と思われる会話を想定した台本を用意し、ロールプレイがスムーズに行えるようにした。

#### (3) 「偏食を改善し、食生活を見直す」という個別の目標から行った授業改善

##### ①単元の目標

- a. 調理により食への関心を高める。
- b. 自分の体と食の関係について知る。
- c. 食品を自ら選択することにより食生活を見直す。

##### ②指導上の工夫点

1年時の調理実習は、教師側で課題を設定して行っていた。その際、この生徒は調理にあまり関心を示さず試食もしなかった。そこで、2年時の調理では調理の課題を生徒自身が自分で選ぶこととし、生徒の調理への関心を導こうとした。また、この生徒は口頭での指示を聞き取るのが苦手なため、小さなホワイトボードを準備しメインティーチャーの指

示をサブティーチャーがホワイトボードに書きながら活動内容の理解を促すようにした。その他、生徒の選んだ課題に対して、本人が見ながら自分で調理が行えるように、写真入りのプリントや順番を表した表を個別に作成した。また、卒業後の生活をイメージしてスーパーで昼食を買う実践を行い、その問題点について認識できるようにした。

## B—1 年間指導計画の改善

### 3 指導の実際 「実践内容2－(3) 食生活を見直す」

時間	学習活動	指導・手だて支援
10	・本時の課題「昼食を買いに行く」ときに意識することを考える。	・意識することは何か意見が出ない場合は肥満など健康と食品の関係についての話題を出す。 ・スーパー内でのマナー、金銭の使い方等についても意識がいくように説明する。
50	・スーパーに自分の昼食を買いに行く。	・選び方がわからず戸惑っている場合は、何に困っているのかを聞き、どうすればよいかアドバイスする。
10	・買ってきたもののカロリー、栄養バランスなどをプリントに記入する。	・書き方がわからない場合は、板書した見本を見るように言う。
10	・どのような買い方をすればよいか意見を出し合い改善方法を探る。	・どう改善すればいいかわからない場合は、改善の具体例を示す。

## C—1 指導案・実践内容2－(1)

## C—2 生徒用プリント・実践内容2－(1)

## C—3 調理実習写真教材・実践内容2－(1)

## C—4 指導案・実践内容2－(2)

## C—5 生徒用プリント実践内容2－(2)

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

家庭科の指導において個別のニーズに基づき、実生活につながる指導内容を実践したことにより、生徒自身も「将来の生活」を具体的にイメージすることができ、より意欲的に授業に参加できるようになった。特に調理では、個人調理を主に据えたことにより、学校で実践したことを自信を持って家でも実践しやすい状況ができた。「今日の調理実習で作ったものを今度の休みの日に作ってみる。今度の調理実習ではチャーハンが作りたい。」というような積極的な意見も出るようになった。さらに3年生になると卒業後の生活をより具体的にイメージするため、食生活の改善を「惣菜の利用」から実践したことはバランスのよい食生活を自分の問題として考えることができるよい機会となった。

#### (2) 課題

授業自体は、8～9名のグループによる指導であるために生徒一人一人に個別の目標がありながらもなかなか授業にそれらの目標を盛り込んでいくことは容易ではない。ただ今回の実践を通して一人のニーズであってもその目標を工夫して取り入れることによって他の生徒にも成果が表れることがわかった。これからも指導計画全体のバランスを見ながら個のニーズをいかに取り入れていくか考えていきたい。

また、授業で実践したことを実生活へ移行し定着をはかるためには、本人の意識とともに家庭との連携がますます必要になってくるであろう。

更に、指導内容は1学年だけで終わることなく、高等部1年から3年まで系統性を持たせることが大切だということがわかり、家庭科担当6人で連携しながら指導内容全体の見直しを図っている。今後は、他教科との連携や進路先との連携も視野に入れ、更に指導内容の検討を深める必要がある。



### 3 指導の実際

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
25 展開 1	2 県内市町の Web ページに公開されている情報について調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が調べる市町を把握する。</li> <li>各自治体のページを開く。</li> <li>実習ファイル内に記載されている情報が掲載されているかを調べ、掲載状況を実習ファイルの各セルに○×で表記する。</li> <li>実習ファイルに記載されていない項目で、掲載されている情報があれば項目を追加する。</li> <li>担当する自治体の Web ページで、気が付いたことを実習プリントに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つの自治体に生徒が集中しないよう配慮する。</li> <li>同じ自治体を検索する生徒が相談して、実習ファイルに入力するよう指示する。</li> <li>実習ファイルは、共有化されているので、データを入力するごとに保存するよう指示する。</li> <li>項目を追加した場合には、他の生徒が同じセルに上書きしないよう、すぐに教師に連絡するよう指示する。</li> </ul>	担当する市町の Web ページに公開されている情報の項目を、意欲的に調べることができる。 <b>【関心・意欲・態度】</b> (実習ファイル)
15 展開 2	3 実習プリントを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各市町が、公開している情報についてまとめる。</li> <li>情報を公開するにあたって、配慮すべき点についてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体が発信する情報の共通性と、独自性に注目するよう指示する。</li> <li>少数の自治体のみが発信している情報については、その理由について考えるよう配慮する。</li> </ul>	自治体が発信する情報の共通性と、特徴について指摘することができる。 <b>【知識・理解】</b> (実習プリント)

C-1 指導案

C-2 実習ファイル

C-3 実習プリント

### 4 成果と課題

#### (1) 情報公開数ランキング表の作成 (表計算ソフトウェアの共有ファイルを使用)

- 共有ファイルを使用することで、自分たちの調べている自治体に公開されていない情報が、他の多くの班で見つかったときには、「自分たちの探し方に問題があるのでは」と考え、意欲的に調べる姿が見られた。
- また、システムの不具合のためなのか原因は不明なものの、入力途中でファイルにアクセスできないことが数例あった。この体験を通して、ネットワークの危険性について説明はできたが、一部生徒には、「コンピュータやネットワークは難しいもの」と感じさせてしまった点は今後の課題である。

#### (2) 作成した表の分析

- 実際には公開されていない情報であっても、より利便性を高めるために公開すればよい項目や、公開されている広報誌の内容から肖像権等に問題を投げかける生徒など問題意識を持って取り組んだ生徒が多い。
- 授業の最後に実施した、5段階の自己評価では調べることに関しては4.8、公開情報の内容や方法の理解については4.2であり、これまでの実習の中でも意欲的に取り組み、理解したと実感する生徒が多い結果となった。

## キャベツ経営を考える？！

農業 野菜 総合グリーン科学科 第3学年  
石川県立翠星高等学校・教諭

### 1 事例の概要

本校は明治9年に創立され、全国でも有数の伝統を誇る農業高校である。平成12年に急激な社会情勢の変化にも対応できる全国初の単位制農業高校として松任農業高校から翠星高校へと生まれ変わった。

現在の生徒は、農業を営む家庭は少なく、入学してくる生徒のほとんどが非農家である。そのような状況ではあるが、1年次に「農業科学基礎」の授業で農業の役割や特性を学び、また基本的な農作物の栽培を体験することで、農業の必要性を理解している。3年次には、より深い専門の知識を求められるようになるため、野菜栽培の経営実態を教えることが必要になる。しかし、このような授業は、教師による講義中心の授業となり、生徒にとっては受身的な授業になりやすい。

そこで、本授業では、経営の基本的な問題について生徒が主体的に考えられる工夫を行った。

①身近な野菜を多面的・多角的に捉えることのできる工夫を行う。②プレゼンテーションソフトを用い、視覚からも様々な経営の特性を理解できる工夫をする。③経営を自らの考えで判断・改善できるようにするために、ワークシートを活用することで、生徒自らが経営の実態を算出できる授業形態をとることとした。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ① 来歴、栽培の歴史、生産の動向、利用の仕方などを把握し、栽培について関心が持てる。
- ② 生育の特性と経営上の特性を理解できる。
- ③ 品種の特性と作型の種類を理解し、生育に適する環境条件などから科学的に判断して、栽培に適する品種や作型・栽培計画を立てることができる。

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

- ① 興味・関心を高める工夫
  - ・ 生徒の興味・関心を喚起するために、市場の動向(産地・労働時間・市場価格など)など、身近な野菜ではあるが、多面的・多角的に捉えることができることを紹介する。
  - ・ 身近な野菜でも、様々な要因が含まれていることを学ぶことで、興味・関心を高める。
- ② 視覚から学ぶ工夫
  - ・ プレゼンテーションソフトを用い、市場の動向、機械化（経営方法）の実態、最新の動向を写真や映像で視聴する。
  - ・ プレゼンテーションソフトは、限られた時間の中で情報を的確に伝えることができるため、生徒とのコミュニケーションが取りやすい。
- ③ 思考・判断を引き出す工夫
  - ・ 市場の動向から市場価格、労働時間、コスト面を考え、ワークシートで経営の実態を算出する。
  - ・ 一ヶ月の収入を算出することで、キャベツ栽培経営の利点、問題点、課題を探る。
  - ・ キャベツ経営を多面的に捉え、課題解決能力を養う。

### 3 指導の実際

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準
学ぶ	【市場の動向】 周年栽培されていることを理解する。 春の出荷量が多くなる理由などを考える。	周年栽培されていることを確認及び発問。 ・おもな産地について ・出荷量について ・各月別のキャベツ価格について (資料およびプレゼンテーションソフトによる説明)	市場の動向を知り、機械化が進んでいることを理解できる。
視聴	【機械化及び最新の動向】 近年の労働力不足と高齢化などに対応できる技術を理解する。 10アール当たりの労働時間を確認する。	【留意点】野菜の安定供給のため出荷制限があること。 現在の農業問題を確認及び発問。 (高齢化、後継者不足) ↓ その影響から機械化が進んでいることを説明。 ・現在の栽培技術での労働時間を確認及び発問。 ・機械化により労働時間の短縮・軽減ができること。 (ワークシート配付)	【知識・理解】 (観察 ノート)
考察	【経営を考える】 市場価格を参考に労働時間が短縮できることで収益がどのようになるか考える。 (ワークシートの記入)	10アールあたりの労働時間及び収益を理解する。 ・10アールあたりの出荷個数の提示 ・栽培期間を120日に設定 (機械化の問題点を探る) 【留意点】自然を相手に経営が成り立っていること。	キャベツ栽培の基本的な経営を考察することができる。 【思考・判断】 (ワークシート)

C-1 指導案

C-2 スライド例

### 4 成果と課題

#### (1) キャベツ経営（農業）に対する関心の高まり

本科目では、栽培の基礎、計画、特性など栽培の技術向上の分野に授業展開が偏りやすくなり、また、生徒も実物を育てることをメインに考える傾向にあった。そのため、野菜経営の利点および問題点を捉える能力に欠けていた点が多少あった。しかし、本授業で、生産者の経営を想定した授業展開を行った結果、今まで生徒が持つ農業のイメージとはまた違ったイメージを新たに持たせることができた。それにより、経営を多角的、多面的に、柔軟に捉えられるようになった。また、経営を円滑に行うためには、栽培の知識が重要であることを生徒は認識できた。

昨年度も同様であったが、3年次ということもあり、社会人となる意識が芽生え始めており、ワークシートで収益面や労働面など現実感が味わえることで、より一層興味関心を引き出すことができた。そのようなことから、生徒は身近な社会情勢を取り入れた授業に興味を持ちやすく、このような現実味がある話題を提供することも一つの方法であると考えられる。

ただし、野菜経営は生物を相手にして行うため、本授業で行った収益などの算出はあくまでも参考値であり、現実に行かない場合がほとんどである。そのことも十分に生徒に教えることが大切である。

#### (2) 視覚から学ぶ取り組みについて（プレゼンテーションソフトの活用）

プレゼンテーションソフトを活用することで、「本物」「実物」により近いものを提示することができ、生徒の意欲が高まった。また、ただ写真を掲載することとは違い、アニメーション効果により、授業の進行がスムーズになることを実感できた。

視聴覚機材が少なく、またそれを活用できる教室が限られている。そのため、必要に応じて様々な場面で活用できる環境づくりが急務となる。

#### (3) テーマについて課題発見・課題解決能力の定着（積極的参加）

栽培技術だけではなく、野菜栽培を経営の面からも多面的、多角的に捉えることで、農業の本質を考えるきっかけづくりを行うことができた。

本授業で行った経営の算出はあくまでも参考値であることを生徒は認識できており、「そんなうまく行くはずがない」「将来、農業をしてみようか」など様々な意見を聞くことができた。すなわち、農業に関する問題提起を行うことで、問題を自ら発見し、解決していく能力を引き出すことができたと考えられる。そのような生徒の考えを適正に評価できる工夫が必要である。

## クイズで地球温暖化に興味を持つ

工業 地球環境化学 マテリアル科・第1学年  
石川県立小松工業高等学校・教諭

### 1 事例の概要

本校マテリアル科の1年生にとって、「地球環境化学」は専門教科中唯一の座学であり、重要な科目であるという認識を持っている。とりわけ地球環境問題に関する単元で学習する内容は、新聞、テレビ等でもよく取り上げられているため、比較的理解しやすく、生徒の興味・関心は非常に高い。授業での反応もよく、生徒は熱心にノートを取っている。ただ、ともすれば板書を写すだけの受動的な授業に陥りやすいため、生徒が自分で考え、積極的に質問し、授業で得た知識を多方面に活用できるような場面が不足していると感じた。そこで、生徒が授業で発言する機会をより増やすための工夫として、教科書以外の文献やインターネット等から地球環境に関連した数々の事件や「環境クイズ」などの資料を収集し、生徒に提示することで、能動的な授業の展開を試みた。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・地球温暖化と人間活動とのかかわりについて関心をもち、問題解決にあたらうとする態度を身につける。
- ・人間の活動が地球温暖化にどのような影響を与えているかについて考察する。
- ・地球温暖化によって発生する課題をみつけ、的確に表現し、課題解決の方向性を示す。
- ・地球温暖化の原因と問題点について理解する。

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

##### ① 環境クイズによる興味づけ

学習内容に興味・関心を持たせるために、「環境クイズ」を解かせることから授業を始めた。問題文を教師が読み、生徒は四者択一で正解と思う選択肢に丸印をつけていく。この作業を20問テンポ良く続けた。

Q. 次のうち、メタンの発生源でないものはどれか。

1. 生ごみの発酵
2. 水をはった水田の泥
3. ペンキなどの有機溶剤
4. ウシが草を消化するときの「ゲップ」

答え合わせの後、できるだけ多くの疑問点を見つけるよう指示し、積極的に生徒が発言する場面をつくった。

##### ② 「確認プリント」によるまとめ

生徒が学習内容をしっかりと理解できているかについて自身で確認できるようにするため、可能な限り授業の最後に確認プリントを実施する。確認プリントでは、なるべく記述式の問題を多用し、理解した内容をいかに自分の言葉としてうまく説明できるかという点を重視し、生徒の表現力の向上を目指した。

B-1 環境クイズ（生徒チェック用）

B-2 環境クイズ解答（教師説明用）

B-3 確認プリント

B-4 評価規準と評価の方法・工夫

### 3 指導の実際

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
展開 35分	・地球温暖化に関する諸問題	・小テスト 「地球温暖化クイズ」を解く。  ・小テストの自己採点  ・小テストの解答について考える。また、その疑問点について質問する。	・学習内容に興味を持つために取り組ませる。わからない問題は自分の判断で答えさせる。 ・口頭で解答を述べ、生徒に自己採点させる。 ・小テストの内容について可能な限り、生徒に質問したり、逆に生徒に質問を募ったりする。	地球温暖化の諸問題について興味を示し、意欲的に学習しようとしているか。 【興味・関心・態度】 (小テスト)

#### C-1 指導案

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① 環境クイズによる興味づけ

生徒の表情を観察しながら、1問1問進行していく間合いをうまく調整することによって、最初は授業に意識を集中していなかった生徒も、次第に考えるようになっていった。クイズ終了後、正解番号のみを口頭で伝え、なぜ?という疑問点をできるだけ多く発見するように促した。通常の授業に比べて、生徒の発言が活発になり、教室全体の意識が授業内容に集中している様子が見られた。また、いくつかの生徒の質問の中から本時の課題につなげることによって、授業はうまく展開していった。環境クイズは、興味づけという点では非常に効果的であった。

##### ② 確認プリントによるまとめ

板書やノートを見ながら、学習したばかりの内容に関する確認プリントに書き込みを行うことで、知識の定着を図った。この確認プリントは各単元の学習するポイントが明確であるため、特に定期考査前に多くの生徒が余ったプリントを求めるなど、非常に好評であった。定期考査の平均点も70点を上回り、おおむね理解している生徒が増加した。

#### (2) 課題

##### ① 環境クイズによる興味づけ

環境クイズは生徒の学習意欲を高揚させるのに効果的であったが、興味づけだけで終わらせるのではなく、その後の授業展開にいかにも有効に利用していくか十分に検討する必要がある。また、いつもこのような授業形式ではマンネリ化してくるので、今後いかに工夫された教材を数多く用意できるかが重要になってくる。

##### ② 「確認プリント」によるまとめ

文章による表現力の苦手な生徒が多く、記述式の問題では機械的に板書やノートの内容を写す作業に徹してしまう生徒も見られる。できるだけ板書の量を減らし、生徒が板書の行間を読み取りながらノートをつくっていきけるような授業の展開を検討しなければならない。また、確認プリントをいかに評価に活用していくかという点について、今後検討していかなければならない。

## プレゼンテーション能力を高めよう

商業 課題研究 情報流通科 第3学年  
石川県立珠洲実業高等学校・教諭

### 1 事例の概要

本校情報流通科は、これまで地域の情報処理教育の中心的役割を担ってきた。しかし、近年、中学校や高等学校においても情報教育が行なわれるようになり、情報流通科卒業生には、これまで以上に高い情報処理能力の習得が求められようになっている。また、本校の生徒には、卒業後の就職を希望して本校を選択したものが多い。このような現状をもとに本校情報流通科における情報処理関連科目の共通の目標として「ビジネス分野における情報活用能力の育成」を掲げ、指導の柱に据え実践しており、本事例は、その取組の1つである。

また、本校生徒は控えめで恥ずかしがり屋の生徒が多く、情報や自分の思いを上手に発信できない生徒が多い。卒業生から就職後もその点で苦労していると相談されることがある。このような課題の対応として、ビジネスに欠かせない資質の一つ「プレゼンテーション能力の育成」を1年次から各科目共通の取組として実践している。併せてその中で有効な情報処理機器の活用を工夫している。

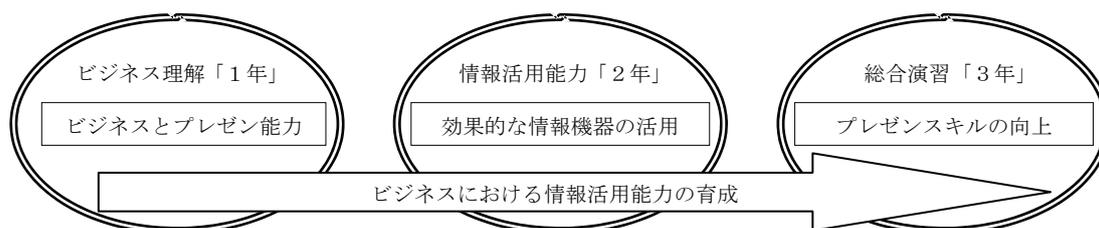
### 2 実践内容

#### (1) 題材の目標

- ① ビジネス社会の諸課題の分析を通して、ビジネス社会に必要な諸能力を理解させ、その1つとしてプレゼンテーション能力があることに気付かせる。
- ② 情報発信能力の向上には、情報処理関連機器の活用が有効であることを理解させる。
- ③ 社会の情報化、特にネットワークの普及がビジネスをどう変化させたか、また今後どのように変化するかを考え、変化に対応できる能力を育成する。

#### (2) 指導上の工夫点(視点)

- ① 学年進行による指導の連携



「ビジネス分野における情報活用能力の習得」のために上記の科目を連携し、科目ごとに発達段階に応じた指導内容の工夫を行うことにより理解・能力を系統的に向上させる。

- ② 起業家精神の育成

ビジネスの諸活動を担う発想力や企画力を育成するため、地域連携型オリジナル商品の開発や販売促進の研究、市場調査の実施により起業家精神を養い、地社会の発展に貢献できる人材を育成する。

- ③ 思いを上手く伝える

現在のビジネス社会においてプレゼンテーション能力は不可欠な能力である。各科目の授業を通して積極的に発表する機会を設定し、さらには発表会形式の実習の場を設け、自己評価や相対評価を通じてより適切に情報を発信する能力を育成する。

### 3 指導の実際

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準
3 5 展 開	展開Ⅰ (発表準備)	自己評価票・相互評価票の項目を確認し、発表の注意点を学習する。	・各評価票を配布し、プレゼン形式で評価項目を説明する。	発表技術 ・話し方 ・発表する態度 ・発表資料の分かりやすさ 【技能・表現】 参加する態度 ・聞く態度 【関心・意欲・態度】 企画力 ・ニーズをどのように把握しているか ・イメージがわかりやすいか 【技能・表現】
	展開Ⅱ (実習)	プレゼンテーション実習 各班8分 ・オリジナル商品開発における企画 ・販売促進方法に関する企画 ・市場調査に関する企画 (各評価票の記入)  ※企画に対しての評価や意見を記入するアンケートも行う。	・評価票の記入について助言を行うとともに、担当教師も相互評価票を記入する。	
C-1 指導案		C-2 ワークシート	C-3 自己評価票	C-4 相互評価票

### 4 成果と課題

#### (1) 実践的なプレゼンテーション能力の向上

年度当初、オリジナル商品や販売促進方法の企画段階でプレゼンテーションを行ったことが絶好の実践の場となった。自分の班の企画をクラス全員に理解してもらい、認めてもらおうとする活動を通して、真剣な取り組みが見られ、非常に効果的であった。聞き手も真剣となり、意思決定における聞き手側の責任も体験することが出来た。授業展開の関係で実施後に検証の時間を十分に取れなかったが、十分な検証が次回への自信につながるので、今後、発展学習として、ビデオでの発表者自身の振り返り学習も取り入れて行きたい。また、企業関係者に参加してもらい、評価や講評を受ける実習も企画したい。

#### (2) ビジネスへの関心の高まり

自分の進路の選択を通してビジネスを考えることが、生徒の学習への関心の向上に効果的である。具体的に情報機器がビジネスにどのように関与し、どのような役割を果たしているのかを理解させることが、本取組の主な目標であり、1年次の「ビジネス基礎」を基礎として、「情報処理」等の科目との連携が重要である。ビジネスにおける情報の役割や必要性を理解することで、実習に取り組む姿勢も意欲的になっている。また、企業体験を通して、さらに効果的にビジネスの理解を促進することができる。本校では企業現場見学会やインターンシップを実施し、ビジネスを理解する機会としている。デュアルシステムのような長期的な研修が効果的であるのは明らかであるが、カリキュラム上の問題点が大きく、導入が困難な状況である。より効果的な企業体験を通じた、実践的なビジネスの理解が今後の課題である。

#### (3) 起業への関心

オリジナル商品の開発や企画、販売促進の研究や市場調査の実施により「ブランド」を意識するようになり、起業への関心が高まった。実際に自分達の企画が商品となり、知らない人がそれに対価としてお金を払うという行為は、生徒の中では衝撃的なことである。さらに地域ブランドを意識した学習を通して、地域活性化を身近に考えるようになり、当初の予想を超えた成果となっている。

## 乳児の特徴と離乳食の実際を知ろう

看護 母子看護 衛生看護科第3学年  
石川県立田鶴浜高等学校・教諭

### 1 事例の概要

本校衛生看護科の生徒は、看護の心を育みながらその知識・技術を習得し、看護師の資格取得をめざしている。看護教育の専門分野である「小児看護」については、生徒自身、幼少時の記憶が薄れていることに加え、兄弟姉妹が少なく年齢の離れた小児の世話をを行ったことのない生徒も多いため、育児をイメージしにくく苦手とする傾向がある。

従来、「小児の日常生活や看護」については、小児の心身の発達と関連させて説明し、校内実習を行いながら理解を促してきた。「小児の栄養と食事」では、調乳のみの実習を行ってきたが、連日のように報道されている幼児虐待の記事や、肥満など小児の生活習慣病の増加に関する記事を見ると、小児の栄養に対する、両親をはじめとする大人の認識の低さを感じる。近い将来、育児を経験するであろう生徒に、小児が健康な発育を遂げるには、適切な栄養摂取が不可欠であること、その栄養は他者（世話する大人）に委ねられていることを理解させ、世話することの大切さを感じ取ってもらいたい。小児の栄養の特徴について、知識だけでは理解しにくいことから、離乳食の調理実習を通して体験的に習得させたいと考えた。さらに、この学習を通し将来の看護師として、また養育者としての認識を深めることを期待した。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

小児を取り巻く生活環境に関心をもち、発達段階に応じた日常生活援助の必要性を理解するとともに、その援助技術を身につけることができる。

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

##### ① 学習への関心を高める工夫

- ・夏休みの課題「乳幼児期の自分」について、母子手帳や家族の話などから情報を得、乳児期から幼児期にかけての自分を知ること、あらかじめ乳幼児期の特徴や世話について関心を高める。
- ・事前に離乳食について認識の程度を調査し、これから学習する内容に関心を持たせる。
- ・講義内で視聴覚教材（ビデオ）を活用し、離乳各期にある乳幼児の発達状態をイメージできるようにする。
- ・講義内容をもとに離乳中期の発達に合った食事を考える場面では、グループ活動を取り入れ、主体的な学習を促す。

##### ② 体験的な学習活動の工夫

- ・家庭科教員と連携し、小児の栄養バランスを考えた離乳食の調理実習を実施する。
- ・調理実習の具体的な学習目標を設定し、家庭科教員には調理方法について協力を求める。

##### ③ 学習の効果を実感できる工夫

- ・事前調査と同じ項目で、離乳食についての学びを振り返ることにより、理解の深まりが実感できるようにする。

### 3 指導の実際 小単元「栄養と食事」 4時間

学習内容	時数	生徒の活動	教師の指導・留意点
①小児の栄養の意義と栄養所要量	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義を通して、小児栄養の意義と栄養所要量を、成人と比較し理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の小児の成長・発達を復習させながら、小児の栄養の特徴について説明する。</li> </ul>
②離乳食	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオの視聴、ワークシートを用い、離乳期にある乳幼児の特徴を理解する。</li> <li>グループ活動に参加し、離乳中期の食事について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオを活用し、離乳期にある乳幼児の発達状態をイメージできるようにする。</li> <li>離乳中期を例に挙げ、専門的根拠に基づいた離乳食をグループで考えさせる。献立早見表も活用させる。</li> </ul>
③調理実習	2	<p><b>【調乳】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人工乳を乳児に適する濃度で、清潔に調乳し、実際に飲んでみる。</li> </ul> <p><b>【離乳食】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定した離乳中期の献立（2種類）を作り、試食してみる。</li> </ul>	<p><b>【調乳】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>清潔かつ正確に調乳するよう指導する。</li> <li>調乳後、試飲し味・温度を体験してもらう。</li> </ul> <p><b>【離乳食】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科教員と連携し、献立の選定、材料の手配を行う。</li> <li>離乳食の基本的なテクニックの中から4つの手技（ゆでる、つぶす、きざむ、とろみをつける）を体験できるよう献立を選定する。</li> <li>調理実習時、家庭科教員が調理方法を説明した後、グループ毎に調理にとりかかってもらう。</li> <li>教員2人の実習中の役割を明確にした上で、グループを回り助言する。</li> <li>試食では、固さ、温度、素材を大切に味等を確認させる。</li> </ul>

C-1 指導案

C-2 離乳食ワークシート

C-3 調理実習ワークシート

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ① 離乳食について、学習前は漠然とした捉え方や誤った認識があったが、講義・演習（グループ活動）・調理実習を通し、ほとんどの生徒が正しく理解できた。特に、小児の諸機能（咀嚼・嚥下・消化機能等）の発達に合わせる、乳児の不足しがちな栄養を補うなど、専門的根拠に基づく理解となっており、生徒も学習の効果が実感できたと考えられる。
- ② 調理実習を通して、離乳食の概念や具体的な作り方、固さや1回量、味などが体験的に習得できた。生徒の所感から、離乳食を身近に感じるとともに、育児に対し生徒自身が考える機会にもなったことがわかる。家庭科教員の協力により、短時間の調理実習で学習効果を上げることができたので、今後も連携をとり、こうした活動を積極的に取り入れたい。

#### (2) 課題

- ① 夏休みの課題には全員が取り組んだが、生徒の多くは乳幼児期の身体の情報を中心に集め、離乳期の状況を詳しく観察していなかった。また、講義まで期間が開きすぎ、内容を覚えていない生徒もいたことから、課題レポートを課す時期を再考するとともに、内容についても小単元に合わせた項目を立てて、学習への関心をより高める工夫が必要である。
- ② 一部の学習内容について理解が不十分であったことから、理解度テストを実施し、知識の定着を図る必要がある。

D-1 事前・事後調査結果の比較

## 社会福祉従事者の職種・資格を調べてみよう

福祉 社会福祉基礎 第2学年  
石川県立加賀高等学校・教諭

### 1 事例の概要

本校は総合学科であり、生徒は2年次より各自の進路に合わせて授業を選択している。福祉科目を選択している生徒の中には将来福祉関連の仕事に就くことを考えている者もあり、福祉に対する意欲・関心は高い。ただし、全体的に受け身の学習になりがちで、自ら積極的に学習する機会が少ないのが現状である。

科目「社会福祉基礎」は福祉をはじめて学ぶ生徒の入門編であり、基本的な用語を確認するとともに、体験的な学習・調べ学習などを取り入れて、積極的に学習に参加する機会を多く設けるようにしている。この単元では、福祉従事者の職種を調べることで、仕事の専門性・相違性を知り、社会福祉従事者としてあるべき姿とはどのようなものかを考えていくとともに、自らの進路選択にも活かしてもらいたいと願っている。

また、調べ学習では内容をまとめる力、話しをする力にも力点を置いている。これは、3年次の「課題研究」の際に、自ら選んだテーマに沿って学習の成果を発表する機会があり、そのための練習としても位置づけている。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・社会福祉の分野にはどのような資格や職種があるのかを知り、それぞれがどのような役割を担いつつ、お互いがどのような関連性をもっているかを理解する。
- ・生徒自身が将来の進路選択を考える材料にしてもらうと同時に、地域社会の中でどのようなかわりを持つことができるのかを考える。
- ・社会福祉従事者として普段からどのような心構えで仕事に臨む必要があるのかを理解する。

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

##### ① 適切に発表させるための工夫

- ・教科書で取り扱われている資格や職種を中心にして、生徒が1人1資格・職種について責任を持って調べる。
- ・レジュメの作成については、仕事内容・資格の取得方法・実際の仕事先などを書くように指導する。
- ・発表方法について、発表用の原稿を作らせてどこにポイントを置いて話せばよいかを指導する。

##### ② テーマに対する理解を深める工夫

- ・発表後に、生徒が内容確認や疑問解消ができるよう質疑の時間を設ける。
- ・テーマに関しての重要語句や最近の動向については、教師が補足説明をする。

##### ③ 生徒が学習改善につなげる工夫

- ・全生徒が「授業発表評価用紙」に発表に対する評価を記入する。
- ・発表者は、評価の結果を受けて今後の参考とする。

### 3 指導の実際

#### (1) 生徒への事前説明（1時間）

- ① 発表形式の授業を行う意義
- ② レジユメの作成及び発表する際の留意点
- ③ 担当項目の決定（1人1資格・職種）



#### (2) レジユメの作成（4時間） 図書室での作業学習

- ① 参考文献の確認
- ② レジユメ原稿の作成…必要事項が盛り込まれているかを確認する。
- ③ 発表内容の検討…レジユメの内容を見ながら、重点をどこに置くかを検討する。



#### (3) 発表（2時間）

- ① 「レジユメ」の配布
- ② 発表者の説明
- ③ 質疑応答
- ④ 評価用紙への記入
- ⑤ 教師による補足説明



#### (4) 各授業後

- ① 評価表の集計
- ② 教師による発表者への指導



#### (5) 年度末

アンケート実施  
(自己評価と授業方法についての意見など)

C-1 指導案

C-2 レジユメ

C-3 評価表

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ① 社会福祉従事者と言ってもさまざまな職種があり、お互いが関連し合っていることに気づき、興味関心を抱く生徒が増えた。また、将来福祉関連の進路を考えている生徒にとっては進路選択の手がかりとなり、授業終了後相談を受ける機会が増えた。
- ② 発表を通じて社会福祉従事者にはどのような資質が必要であるのかを考える機会になり、仕事に関する心構えを学ぶ上でよい材料になった。
- ③ 与えられた項目について、関連の書籍やインターネットなどを活用して調べることで、教師が一方向的に知識を提供するものとは違う刺激があった。また、発表形式と言うことで各自が工夫をしながら準備をしており、発表後の達成感があったようである。

#### (2) 課題

- ① 自分が担当をした項目については理解が増したが、それ以外の部分については理解が浅く、教師側の補足が必要である。また、発表後に確認テストを行うなどの工夫も必要である。
- ② 発表形式の授業に慣れていない生徒が多く、説明が不十分なためレジユメの内容を生かせない場面が多く見られた。事前の準備段階での打ち合わせを綿密にする必要がある。
- ③ 発表会の後に専門職の方を講師として招き、理解度を深めるなどの工夫をすることが必要である。